

# 私の消防団PRIDE

第二十九回 保土ヶ谷消防団第四分団 輪田団員

令和4年6月1日掲載

保土ヶ谷消防団第四分団第2班の輪田と申します。

令和3年に還暦を迎えました。

仕事・家庭・順調に子育て、と。月並みですがどうにか今を迎えております。

2015年、結婚当初に手に入れたマンションから老後のことを考えて駅まで徒歩圏内である現在の住まいとなります西谷へと移り住みました。

保土ヶ谷消防団へ入団したきっかけは、移り住んだ家の目の前にある公園で開催された春の火災予防運動のイベントでした。

参加した際に、災害時や救急が必要な時に「自分に何ができる?!」と考え、不安や危機感を持った時に目に入ってきたのが「消防団員募集」の文字でした。

ボランティアにもならないかもしれませんが、せめて自分や家族個人が協力できることがあればと団員募集へ応募させていただき2016年7月に入団、現在に至ります!

人生を折り返し、先をゆっくりと考えられるようになりました。

まだまだ、知らないことや出来ないことも沢山あります。

もっと身体が動く時、頭が回る時にやっておけば良かったとも思いますが、まだもう少し奮闘可能かな?! (笑)

自分なりに時間をやりくりし、未だ新しいことへのチャレンジ中ですが、無理せずに地域の方々と繋がる機会にもなっております。

いつでも「まずは一歩!!」の気持ちで、心の歩みを止めずに生きていけたら～と思っています。

皆さんも、是非ご一緒にいかがですか?♡



最後列一番右が輪田団員  
(写真撮影時のみマスクを外しています。)

# 私の消防団PRIDE

第三十回 保土ヶ谷消防団第一分団 小林部長

令和4年7月1日掲載

## ◆消防団員になって思うこと。

入団のきっかけは2011年の大震災でした。

一方で、当時私は職場の責任者として安全管理に関して、職員からの批判を受けていました。

自分ではしっかりやっているつもりだったのですが。。。

消防団員になれば、その辺が身について自分のためになると考えたのです。

幸い所属した班の先輩たちが経験豊かで楽しい人達ばかり。

今でも消防団員を続けていられるのは、そんな先輩たちのおかげだと感謝しています。

とはいえ、入団当初はやる気はあっても、やる事なす事すべてが空回り、失敗の連続でした。

新入団員の訓練の手伝いで、媒介の操作を誤り、筒先の女性団員にちょっとした怪我を負わせてしまったこともあります。（かすり傷程度で済みましたが）

また、管轄区域での夜間の火災に出動した際のことです。

団員幹部の指示の元、張り切って動いたのですが、現場を照らす為の発電機の燃料が切れていて、おまけに投光器も球切れでした。

怒鳴られ、うろたえながら、他の班の器材を借りに行く始末。その火災は一名の死者を出して、深夜の二時頃に鎮火しました。

地元だったので、他の団員と共に最後の片付けを行い、真冬で放水した水が凍りかける中、虚しく家路に着いたのを覚えています。

そんなこともあり、その後は同僚の助けを借りて資機材の整備に力を注ぎ、また団や消防署が計画する研修に積極的に参加するようになりました。団員として何が必要でどうすべきか、身につける技術は何かなど、日々学ぶことばかりです。

日常の生活、職場で活かせるものは繰り返し身につけるようにしました。結索や機材の取り扱い、安全管理など。散歩中に礼式の動作を取り入れたりもしました。

そんな積み重ねの中で気づいたことは、自分のような失敗をしない団員の育成です。そこで、いまは実際に先輩や同僚の助けを借りて色々な訓練の計画を進めています。

ただ、資機材を取り扱う訓練の前日などは参加者がケガをしないように準備したのか、不安で寝つけないこともあります。

大事な慣れ過ぎてはダメだということ。これを自分に言い聞かせながら、毎回訓練にのぞんでいます。



# 私の消防団PRIDE

第三十一回 保土ヶ谷消防団第二分団 高橋部長

令和4年 8月1日掲載

こんにちは

保土ヶ谷消防団第二分団本部の高橋聡と申します。

我が家は私と妻と息子夫婦と孫3人で暮らしており、毎日騒がしくも有りますが楽しく生活していますので、消防団活動にも笑顔で送り出して頂いています。

入団したきっかけは、自治会でとても親切にいただいている人が消防団員になり、消防団活動の楽しい話をいろいろ聞いてるうちに興味が湧いて保土ヶ谷消防団に入団しました。

消防団員だと実感する時は、自分の地域で災害があった時に、地域を守ろうと思う団員が一致団結し活動をしている時や、訓練など、世代を超えた一体感を感じる時です。

消防団員になって大変だった事は、操法訓練が一番大変でした。全力で身体を動かす機会が無かったので、特に夏場の暑い中での走り込みは大変でした。当時入団二年目だったのでポンプ操法が思い描くように出来ず身体が覚えるまで繰り返し練習しました。

一方で、幸いポンプ操法訓練の指導でも熱い想いを持つ先輩方や消防署員の方々が多数サポートしてくださり、厳しい環境の中でも優しく支えて頂いたことが今思えば一番大変でしたが一番嬉しい経験です。

また、消防団員にならなかつたら出会えなかつた地域の様々な世代の人と知り合えた事、家族のような先輩方、助け合える仲間達が居てくれる事、それと孫が活動服姿をカッコ良い～な～と言いながら送り出してくれる事で、あらためて消防団員になって良かったとしみじみ思います。(笑)

いつの間にか消防団員になって20年以上が経過しました。消防団活動をしているとまだまだ日常生活や職場で活かせる事も学べますし、緊急時の行動や対応法も学べます。まだまだ学ぶ事がたくさんありますが、いかなる時でも自分の家族を守り、自分達の地域は自分達で守る為にこれからも消防団活動を楽しみながら頑張っていきたいと思います。



右列の一番車両寄りが高橋部長

# 私の消防団PRIDE

第三十二回 保土ヶ谷消防団第三分団 池田副班長

令和4年9月1日掲載

私が消防団に入ったきっかけは、2018年7月、和田町の「べっぴん市」を妻と二人で散策していた時でした。

それまでの私は地域の人と交流しようとか、世の中のために何かできるかなど考える余裕もないほど仕事一辺倒で生活していました。でも、この時はたまたまその仕事に見切りをつけて退職し、次の目標を考えていた時期で、また、子供たちもそれぞれ独立して、夫婦二人の生活が始まり、人生の中で初めて周りを見渡せる時期でもありました。

消防団の広報テントで勧誘チラシをもらい、お祭りを楽しんだのちに一旦帰宅したのですが、チラシをもらった妻はなぜかすごく乗り気で、「消防団って男の人しかできないものと思っていた。女性でもできることがあるなら二人で入ろうよ。」ということになり、再び広報テントに戻って手続きをしたのです。その時手続きをしてくださったのが後に女性初の分団長を務めることになるHさんとは知らずに「ご夫婦で！？大歓迎です！！」の言葉に妙に嬉しくなったことを覚えています。二人とも50歳に達したところで、あまり役には立たないだろうと思っていましたが、所属した第三分団1班では更なる歓迎を受けて、訓練や活動に参加し、現在副班長を務めることになっています。

参加した活動の中で特に印象の深かったのは「ポン操」と呼ばれる持ち運び可能な小型動力ポンプを使用した「小型ポンプ操法」の選手に選ばれたことです。大会に向けて何度も訓練を繰り返すのですが、選手以外にも支援のために参加してくださる多数の先輩団員の方と顔見知りになり、多くの事を学びました。機械ものが好きな私が担当したのは「機関員」。実際にポンプを動かして火点（仮想の火災現場）に近いところにいる仲間へ水を送る役割です。「縁の下の力持ちみたいでカッコいいじゃん」と思っていました。

実際の火災現場に出場したこともありました。その時は火災現場周辺の交通整理や通行人の安全確保を担いましたが、多数の消防車が集結して火災に立ち向かうのをサポートしているんだなと誇らしく思いました。

現在は救急救命の勉強をして指導員となり、新入団員への指導を行ったり、地域の防災イベントや防災訓練などで地域の方への救命法の説明も行っています。

消防団は消火活動だけではなく、地域の安全安心を守る役割もあり、地域の方との交流や自身の経験、知識を広げることにもなっています。最近ではニュースで非日常的な災害を目にするたびに他人事ではないなと考えることが多く、ここで得た知識や経験が必要になることもあるだろうと、またそのようなときには積極的に活動しようと思うようになりました。



# 私の消防団PRIDE

第三十三回 保土ヶ谷消防団第四分団 藺田分団長

令和4年10月1日掲載

保土ヶ谷消防団 第四分団 分団長 藺田です

最近、新型コロナの感染者が減少傾向にありますが、いままで同様に感染防止対策を充分に行い、お互い健康管理に気を付けましょう。

さて、私が消防団に入団したのは、1994年4月でした。入団のきっかけは当時所属していたソフトボールチームの監督が第四分団1班の班長をやっていた事もあり、なかば強引に入団させられたというのが本音でした。入団したものの、何も分からず、当時の勤務地が横浜スタジアムでしたので、宿直他ナイターもあり土曜、日曜、祝日も関係なく勤務がありました。休日の訓練などにあまり参加できない為、ポンプ操法にも参加できませんでした。入団9年目に職場の同僚達の協力により、ようやくポンプ操法で指揮者をやらせていただきました。ポンプ操法訓練は夜間に（1日おきに3・4か月）かなりキツイ訓練でしたが、今では楽しい思い出になっています。これからポンプ操法大会はどのような運営になっていくのか分かりませんが、大会はともかくポンプ操法自体は是非皆さんにも経験してほしいと思います。

私は今年67歳になり定年70歳まで、先が見えてきました。

保土ヶ谷消防団は団員充足率100%を7年連続で達成しています。

入団希望者は随時受付中です。あなたの力が必要です。私たちと一緒に、わが街、保土ヶ谷の安全を守りましょう。

よろしくお願ひします。私も頑張ります。



# 私の消防団PRIDE

第三十四回 保土ヶ谷消防団第一分団 加藤祐一団員

令和4年11月1日掲載

## <仕事と家庭の両立>

入団から6年、家庭や勤務先の応援もあって消防団活動を現在も続けられています。昨年、会社を退職してからは、消防団は社会との接点をしっかり持てる場だという意識がさらに高まりました。

## <消防団とはどんなところ？>

コロナ禍の前は、年末年始に町内会と自治会との交流も盛んでした。餅つき大会や夏祭りでは露店を出したり、仲間同士ではバーベキューをしたり、本当に楽しくて、訓練に関しても技術がレベルアップしたと実感しています。

コロナ禍になってからはレジャー的な交流は、まったくなくなりましたが、それでも助け合う仲間がいて、心遣いと励まし合いがあるので、消防団は心温まる場所だと思っています。本当にお互いを守っていくムードがあるので、自然と活動にも地域を守っていくという気持が芽生えます。

## <自分にとって良かったこと>

消防への専門的知識が身に付きました。特に応急手当指導員を取得して、これをもとに防災士にもなりました。自分自身のレベルアップにもとてもよい環境だと思います。私は、学んだ知識を活かして、小学校や区役所や公民館などでイベント出展や講師などに活かしています。

## <入団希望者へのメッセージ>

入団してわかったことは、なにしろ無理をしないこと。それを常に念頭におき、活動しています。なので自然な形で入団されるのが一番よいと思います。いつも学びがあるのでポジティブな気持ちがあれば、ぜひ、門を叩いてみてはいかがでしょうか。



# 私の消防団PRIDE

第三十五回 保土ヶ谷消防団第二分団 橋本健班長

令和4年12月1日掲載

こんにちは

保土ヶ谷消防団二分団1班の橋本 健と申します。

入団したきっかけは、町内の親しい先輩に、もう一人入団すれば、この町内にも積載車が配置されることになるので、是非入って欲しいと頼まれたことがきっかけです。私はサラリーマンなので平日の活動は無理ですが、入団することにしました。ところが、その直後班の編成が変わり、私が入団したと関係なく、積載車が配置されることになりました。その後、私を誘ってくださった先輩は、隣町に引っ越し、いつの間にか私は、班長を任される立場になっていました。

以前に私も他の PRIDE 団員と同じく、ポンプ操法大会に参加させてもらったことがあります。礼式という名の細かいポンプ操作等の作法を学びます。大会で上位の成績を収めるためには、この礼式を遵守し、素早く正確な動作をすることが求められます。結果、上位の成績は収められませんでした。練習の日々は、辛く、楽しく、私にとっては、忘れられない経験となりました。

話は、変わりますが、私は今年、屋久島の縄文杉を見に行ってきました。縄文杉を見るためには、片道5時間、往復10時間歩かなければなりません。前半の3時間は、トロッコ道で比較的平坦ですが、後半の2時間は険しい登山道となります。日頃運動をあまりしない私ですが、なんとか、縄文杉までたどり着き、帰ってくる事が出来ました。

今思うとこれも、ポンプ操法大会の練習のように辛く楽しい経験だったと思っています。

最後に、これを読んでいらっしゃる、消防団に興味のある方に伝えたいことがあります。私でも仕事と両立させて出来ますので、あなたでも大丈夫です。サラリーマンでもなんとかなります。是非、私たちと一緒に地域貢献のために消防団活動を楽しみましょう。



# 私の消防団PRIDE

第三十六回 保土ヶ谷消防団第三分団 池田副班長

令和5年1月1日掲載

保土ヶ谷消防団第三分団3班所属の池田と申します。

入団のきっかけは当時の班長から誘われて入団しました。

引っ越してきたばかりで町内のことも分かっておらず、交流と共に少しでも貢献できればと思っておりました。

入団後、すぐに当時3班としてポンプ操法の2番員選手に選ばれて、1日おきの訓練に戸惑いもありましたが、多くの方からサポートいただいたおかげで最後まで続けられて保土ヶ谷大会に優勝することが出来ました。

横浜市大会ではレベルが違い過ぎて驚きましたが、良い経験をさせていただきました。

その後、第三分団合同チーム一番員として再度大会に出場させていただきました。

仕事との両立が大変辛かったです但し忘れられない思い出となっています。

今まで消防団といえば火災時の補助するイメージでしたが、近年異常気象からの災害対策の活動が多くなってきています。

消防団でなければ見ることも触ることも無いような工具、機材を取り扱ったり、救急救命講習やAEDも触る機会があり、自分にとって凄くプラスになる事が多く、消防団に入って良かったと思っています。

現在、転職して消防団として活動する時間が以前より少なくなっていますが、これからも出来る限り活動に参加して、消防団を楽しむと共に地域に少しでも貢献し、いざという時に頼りになる消防団員になりたいと思います。

また、もっと若い人にも消防団に興味を持ってもらい、一緒に活動出来たらと思っています。

無理せず、誰でも興味と意欲があれば仕事と両立して活動出来ますので、皆さんも消防団活動を楽しみませんか。お待ちしております。





# 私の消防団PRIDE

第三十七回 保土ヶ谷消防団第四分団 小金井部長

令和5年2月1日掲載

川島のジュリーこと第四分団部長の小金井正です。

消防団に入団したきっかけは、父親が消防団を20年やっていたこともあり、いずれは自分も消防団に入団する時が来るなと思っており、自分の生まれた地域で何か役に立てないかなどを考えていたのが36歳でした。ちょうどその頃に消防団に入団しないかと町内会役員の方からお誘いを頂き、入団しました。このお誘いはまだ続きがあり、青少年指導員と町内会役員のお誘いもあり、当時は良く分からないまま同時期に引き受けてしまい、気が付いたら25年が経過しました。

青少年指導員は20年で引退したものの、一昨年から地元の杉山神社の世話人も引き受けることとなり、相変わらず忙しい一年を送っていますが、おかげさまで、沢山の仲間が出来たのは私の財産とだと思っています。

そして、第四分団1班のメンバーとOB、西谷出張所の所長を交えたボーリング大会を恒例行事で開催していた時期もあり、仲間との絆を深めるには良い機会でした。

また、消防団として一番記憶に残っているのが、平成11年9月21日の保土ヶ谷区のポンプ操法大会に向けて1番員の補助員として3カ月の訓練に参加していましたが、1番員が大会直前で体調不良でリタイヤすることとなり、急きょ短い訓練時間で区大会に参加するも、残念ながら3位に終わり悔しい思いをしたことです。

今年は、私の出身班である第四分団1班が横浜市のポンプ操法大会に出ることが決まり、1班のメンバーともども、気合が十分入っています。やるからには優勝（金メダル）を目指せるような雰囲気作りをして1班がより一致団結できるよう、全力で協力して行きたいと思います。

※写真は消防団ボーリング大会で優勝した時の写真です！



# 私の消防団PRIDE

第三十八回 保土ヶ谷消防団第一分団 石田副班長

令和5年3月1日掲載

令和3年1月1日付で保土ヶ谷消防団に入団した第一分団2班の石田と申します。

早速ですが、消防団に入団するきっかけを紹介したいと思います。

私は、ある会社の横浜市内の工場に入社後、上司に勧められ工場の自衛消防隊に入隊をしました。

工場の自衛消防隊の活動は大変盛んであり、鶴見区の消防操法技術訓練会の小型ポンプ操法では常に上位に入賞し、鶴見区の代表として横浜市と同訓練会にも毎年のように参戦し、度々優勝をしていました（私は、屋内消火栓の選手で頑張りました）。

工場に約10年間在籍した後、3つの国内の事業場に転勤して、何と25年振りに再び入社した工場に戻り、今度は管理職として工場の防火・防災活動を管理する立場となりました。

赴任後、業務上で消防署の予防課長などとお話しさせていただく中で、横浜市の各区の消防団員の充足数のことをお聞きし、保土ヶ谷区も団員が不足していることが分かりましたので、これまで自衛消防隊の訓練で培った経験を地元で活かし、少しでも貢献できればと考え、保土ヶ谷消防団に入団しようと思いました。そう思ったのも束の間で、1年9か月程で仙台へ転勤となってしまい、入団はお預けとなりましたが、1年で東京へ戻ることになりましたので、これを機に思い切って入団をしました。

入団手続きが進み、活動服が届き、辞令交付式で初めて着用をしましたが、非常勤特別職の公務員として大変身の引き締まる思いであったことを今でも覚えております。

初めて分団の訓練に参加した時に感じたことは、指導にあたってくださっている方々の情熱をもった指導と、団員の方々はその指導を受け、真剣になってひとつひとつの動作を一生懸命に覚えているところが、みんな生半可な気持ちで入団した訳ではないなあということでした。私より年上の60歳を超える方々が、「結合よし！」等と大きな声を出している姿を、初めは想像していませんでした（笑）。

もし、入団するか迷っている方がいたら、入団した方が格段に自分の視野も広がるし、確実に自分のためになるので、迷わず、是非、入団することをお勧めします。大きな声では言えませんが、現在の消防団員の方々はどちらかというと年齢が高めの方が多いので、次の世代に防火・防災の意識を引継ぐためにも、若いうちから入団をして欲しいと思います。仕事をしながらでも、無理せず活動できますので！

以上

